

旅路を見守るサングワ



沖縄本島と伊江島を結ぶフェリーが発着する港であり、那覇港と鹿児島港を結ぶ航路の寄港地のひとつでもある本部港。

地元の人々をはじめ、修学旅行生や観光客が胸を膨らませて出発し、思い出を乗せて戻ってくる。そんな人々の思いを迎え入れ送り出す、憩いの場。

この場所に訪れる人々を包み込み、やさらかな旅路を見守る建築を提案します。

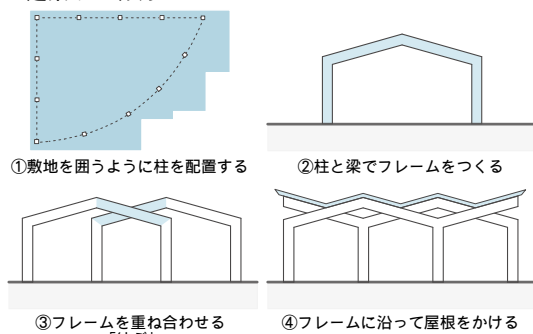
*サングワ

「サングワ」とは、昔から伝わる沖縄のお守りです。スキの葉などで輪をつくり、結ぶことで魔除けやお守りとしての効果があると言われています。子どもが出掛けの時に持たせたり、食べ物が痛まないように重箱に添えたり、家を守るために玄関先に飾ったりする温かみのあるものです。そんな人々や物、場所を側で見守る「サングワ」のような建築をつくりたいと考えました。

*サングワの作り方



*建築の作り方



サングワフレームで構成されたこの空間は、訪れた人に島々のつながりを連想させる。人々の思いを包み込み、見守る建築となる。

サングワフレームに沿って屋根をかけることで空間に抜けができ、フレームの間隙から風や視線が通り抜けれます。隣接する旅客待合所や周辺の海や山との調和を目指しました。



南東側デッキ広場から見る

分節された屋根がブリーツ状に広がり訪れた人々を包み込みます。

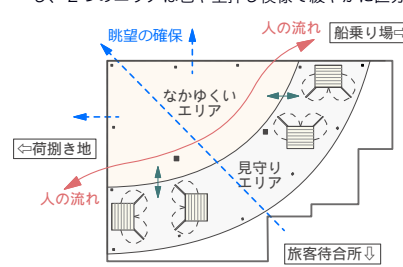


北西側俯瞰フェリーの上から見る

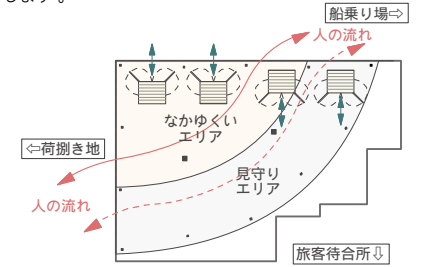


*コンテナの置き方

旅客待合所からフェリーへ向かう動線上にコンテナ置き場があると立ち寄りやすいと考え、2つのエリアをつくり人の流れを誘導します。床仕上げはフォークリフトが走行可能で耐久性の良いアスファルト舗装を選定し、2つのエリアは色や型押し模様で緩やかに区別します。



修学旅行生や観光客の多いオンシーズンは、利用者が様々な方向から荷物を積みこみやすく、眺望を遮らないように見守りエリアへ



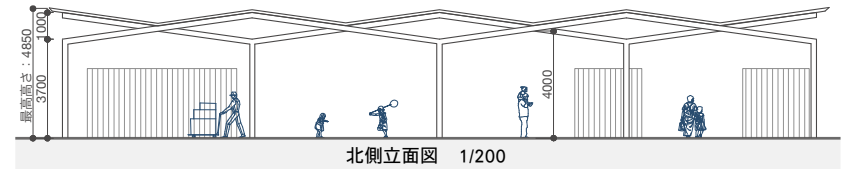
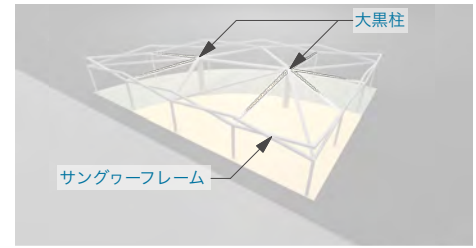
オフシーズンや荷物の多いイベント時には、フェリー乗り場の近くにコンテナを直線に並べたり自由に配置することが出来ます

*構造計画

鉄骨の柱と梁で組まれるサングワーフレームで敷地を囲い、中央にある2本の大黒柱に梁をかけて支え合う構造とします。

サングワーフレームの柱と梁は同サイズで構造材は現しとし、シンプルな構造計画とします。屋根素材は軽量のものを採用し、コスト削減と工期の短縮に配慮します。

屋根の下にいますと、構造材が見え、島々のつながりを感じることが出来ます。



*建物概要

階数	地上1階
構造	鉄骨造
建築面積	: 477.85㎡
コンテナ置き場	: 96.00㎡
休憩スペース	: 380.87㎡
柱	: 0.98㎡
最高高さ	: 4.85m

*仕上げ

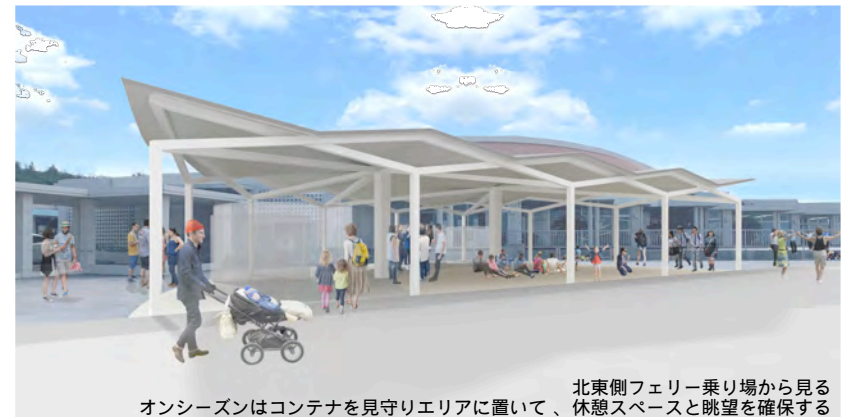
フレーム(柱梁)	: 鉄骨200角+塗装仕上げ
大黒柱	: 鉄骨500角+塗装仕上げ
軒裏	: ケイカル板t6.0+ウレタン塗装
屋根	: ガルバリウム鋼板t0.4 縦ハゼ置き
床(なかゆくい)	: 型押しアスファルト舗装+カラー塗料
床(見守り)	: アスファルト舗装+カラー塗料



なかゆくいエリアからの眺望
景色を眺めながらフェリーの時間までひと休りする



北西側から見る
オフシーズンや荷物の多い時はコンテナを自由に配置することが出来る



北東側フェリー乗り場から見る
オンシーズンはコンテナを見守りエリアに置いて、休憩スペースと眺望を確保する